

第 100 回 ほほえみ 開催

7月19日(水)第100回 ほほえみを開催しました。
2009年2月に開設してからたくさんの方に参加していただきながら歩んできたほほえみも、今回で100回を迎えることができました。これからも参加者と共に歩み続け、200回300回と開催していければと思います。そのためにも、1歩1歩、1日1日を大切に。まずは101回目。



今回は14名に参加いただき、当院の緩和ケア部長の西本医師より緩和ケア研修会と緩和ケア病棟の実績についてミニ勉強会を開催してもらい、緩和ケア病棟の利用状況や緩和ケアは診断された所から始まるといった説明がされ、勉強会後に西本医師を囲んで緩和ケアについての疑問についても話し合われました。参加者からは「緩和ケアのイメージが少しだけ良い方へ変わった」「緩和ケアの理解が変わりました」といった声が聞かれていました。9月にはお楽しみ企画として「手品」の開催を予定しております。お楽しみに。

次回のほほえみは、8/16(水)14時から16時まで
北館3階 大会議室での開催となります

【がんサロン事務局】

『がんサバイバー』

(がん体験記)

がんを経験された方なら、“がんサバイバー”という言葉は一度は耳にしたことがあると思います。

私がこの言葉を知ったのは、自分が乳がんになってから。もしかしたら以前にも聞いたことがあるのかもしれませんが、当然のことながら記憶にはありません。

私の中で、“がんサバイバー”というと、なんだか“雲の上の存在のような人”でした。なぜなら、その言葉のイメージから、“サバイバー＝がんを克服した人”だと思っていたからです。

「私には、“サバイバー”なんて、まだまだ遠いなあ・・・」
そう思っていました。

でも、本当の意味は、“がん告知を受けたそのときから、誰もがサバイバー”らしいのです。

「じゃあ、私もサバイバー？」

治療の副作用もつらく、“がん”という真っ暗闇の中にいた私には、その言葉が持つ力強さが自分に不似合いなものに感じていました。

でも逆に、“誰もがサバイバー”と思えることで、“仲間”という意識も芽生えました。

「こんなにも“サバイバー”がいる」——。

そう思えることは、心強くもありました。

話をしたことがなくても、顔の知らない人でも、がん患者はみんな“サバイバー”。

“がん”という病に、身体も心も押しつぶされて弱々しい自分。でも、“サバイバー”というだけで、なんだか強くなれたような、闘っていけそうな気がしました。

みんなが闘っている。だから私も一緒に——。

(北海道／女性／乳がん／がん患者本人)